



# 岩手県人会ニュース

178

Rua Thomaz Gonzaga 95 - M Liberdade São Paulo SP Brasil CEP 01506-020

TEL/FAX (011) 3207-2383 E-mail ; iwate@iwate.org.br www ; iwate.org.br

2012年6月発行

## 第6回「わんこそば大会」大盛況！



以下70杯、29杯(一番少ない)の人もいた。次の準備までの時間に、県人会太鼓「雷神」の演奏で奏者の家族なども応援に駆け付け 20分ほどの演奏があり盛り上げた。

2回目は女性部の4人で菊地さんが85杯、3回目は若い青年5人で高橋さんが83杯、最後も4人に女性一人で



最終回に出場した人々と

5月27日(日)岩手の名物「第6回わんこそばまつり」が午前10時半から行われ、11時過ぎには「そば」や「岩手復興写真展」を見る人で一杯になった。来場者総数は300名を超え大盛況。

「わんこそば」は「コロナの名物」として定着。競技に参加しないが、そばを味わいたい方々には「ざるそば」方式で餃子付、薬味は紅ショウガ、シイタケ、昆布、金糸卵、ネギ、ワサビなどたっぷり。食べ放題で中には6杯も食べ夜はちょっと苦しかったと話していた。

来場者に感想を聞くと「そば」は「こし」も良く「汁」も美味くなったと皆さんの評価でした。因みに「出汁」は、昆布、椎茸、鰹節、いりこに調味料などたっぷり使用。毎回出汁作りは思考錯誤です。

注目の、一口そばを3分間で何杯食べられるかを競う、早食い競争で食べ方もなりふり構わず真剣そのもの。

1回目は5人が競い(無差別)毎回参加の村上さんは、6回目にして98杯でチャンピオンになった。村上さんは毎回競技に出場。今回は3日前から固形物の食事避け、水をガブ飲みして胃袋を空のまま膨らませる「わんこそばサイボーグ作戦」で、涙ぐましい努力をしたとサンパウロ新聞のモザイク子が書いていた。



千田会長からガッツポーズでカップを受ける村上さん



ざるそばを何杯か平らげて一休みの皆さん

この部で一躍チャンピオンを狙っていた100キロの巨漢藤井青年は76杯で2位。次回には新チャンピオンになって欲しい。

岡田さんが97杯で、95杯、84杯と続いた。☆ 競技に食べたお椀の総計は1,248杯分でした。この競技は食べる人と注ぐ人のタイミングにもよる事を伝えたい。



給仕さんも忙しい

県連事務局の伊東さん(大分県出身)が「そばかつ(岩手ではケツコと云う)を皆さんに試食させたいと、材料や道具を一揃い持ちこみ、作りかたを実演し試食として振舞った。「そばカツ」は、今回はそば粉を練り三角状に切った麺を茹で、そばの汁に豆腐や大根を太めに輪切りし、ニンニク味噌味でスープを作り、麺を入れて煮込んだ。(山梨のほうとうに似ている)素朴で「おふくろ」の味に皆さんは喜んで食べていた。



(写真は麺作りの伊東信比古さん)

いろいろな作り方があるらしく、麺にニンニク味噌やネギを練りつぶし麺につけて食べるのが本式らしい。

# いわてだいしんさいふっこうしゃしんてん 3.11 岩手大震災復興写真展



【はじめに】昨年3月11日「東日本大震災」で、岩手県沿岸部は津波の甚大な被害を受けた。コロナ日系人から多くの善意ある支援が、岩手県人会へも「義援金」や「お見舞い」が寄せられた。震災から1年余、岩手の実情を写真集でご覧頂き、ご支援を頂いた皆さんにお伝えしたいと企画。母県の新聞「岩手日報社」へ写真集をお願いし快く応じていただき開催出来ました。

5月27日から31日まで(27日はわんこそばまつりと併合)「岩手大震災復興写真展」を催した。会場は震災復興を願い婦人部皆さんが作った「折鶴」も飾られ、展示された写真集を「想いも新たに」多くの来場者は写真集一枚一枚を丹念に観賞していた。5日間で写真展に来た人は約500名と少ないが、実行して良かったと思う。

展示テーマは「被災地を歩く」編10市町村(震災直後、3カ月後、9カ月後)と同新聞記事を4倍に拡大、「3・11を忘れない」編7枚、「子供の笑顔 被災地に勇気を」編12枚、「平成三陸大津波の記録・記者の証言」は、津波が押し寄せた瞬間を3枚づつ3地区69枚に、かいん、さんじょかいいん、しゃしんやく、会員や賛助会員の写真約20枚。写真には「岩手日報社提供」、地名や解説、ルビ、一部はボ語翻訳をつけ展示した。



写真を見た植木さんは、忌わしい大震災から一年が過ぎましたが、改めて被災地の様子を見せられて、強心におしよせてくるものがありました。我々は一言で震災と申しますが、そこには人々が生活しており、暮らしがあることを思い知らされます。

今日、岩手県人会様が開催した写真展は、大変大きな意義があったと思います。関係者の皆様には開催にあたり準備に追われた事と思ひます。このような素晴らしい写真展を開催して頂き、心より御礼申し上げますと感想文をよせた。



ソカバ市から来た石川さんは、改めて震災の凄まじさを感じ早い復興を祈ると述べた。若い日系女性は写真を丹念に見ながら日報記事を一字一字つぶさに読んでいた。

あるご老人は、1年余経たが震災を「風化」させてはならないと述べ。最終日訪れた小原さんは、忘れられようとしている震災復興写真展は意義ある事だ。ありがとうと語った。同じく杓田さんは、私もコチア青年55周年式典で写真展を担当し、準備がどれだけ大変かを知りました。このような催しは私たち一世の役割だと思います。これから地道に報道し続けてください。

また写真展では、IBC岩手放送から寄贈された「3・11岩手大津波の記録」も上映。凄まじい映像や震災前の沿岸部が美しくかつた映像を見て、早く災害対策をたて、2度と悲惨な惨状を見たくないとい祈るような口調で話していた。



日報社からCDに録画された、写真集を見た編集子は、震災から一年経った現在、被災地で実際の復興が進んでいない事に啞然とした。各地とも復興計画で多くの問題点を抱えている事情がある。

家屋を流された住民は不自由を感じながら、狭い仮設住宅で凌いでいる。仕事場を失った方々が大勢いる。被災地では人口の流出もある。被災者は皆さん早く元の生活を戻したいと、新聞やテレビ特別番組などで訴えているのが痛いほど気持ちがわかる。

一番の問題点は生活拠点があった浸水地域である。平野部が広地域ほど死者や不明者数も多く、また家屋、商業施設、田畑などの被害も大きいほど、高台は遠いだろうし生活圏に不便な点もある。平野部が多くても少ない地方でも、高台には平野部が少ない、あっても田畑や山などで多数の住居移転には様々な難点があると思う。

以前にも提唱した20mから30mの強固な沿岸道路兼防潮堤を築き、想定外の地震や津波にも耐えうる防潮道路の建設を望みたい。そうすれば土地の嵩上げや高台移転なくて済むと考える。「一考を望む」。



そんな中の被災地では仮設店舗で、ふりだしから細々と頑張っている姿も見える。津波を起こした恐ろしい海を相手に仕事をしている漁業者は、いち早く各地からの支援により用具である船、または養殖用具を手に入れ、漁獲が少なくても漁が出来る喜びで笑顔もかえり、将来への夢を描きつつ励んでいるようである。最後に企画へご賛同頂いた岩手日報社に心から感謝と御礼を申し上げます。



また写真展を見て、被災地へと義援金 R\$1101.30 がありました。有難うございました。

- 3月1日 県連代表者会、領事館・州政府主催の大震災復興写真展に千田会長出席。
- 5 東ヴァネッサさんの留学書式を国際課山田さんへ発送
- 7 ツケイ新聞から依頼された「大震災一周年に寄せて」を送信
- 9 国際課伊東さんより100才達成者、南米県人会式典などについて
- 10 役員会開催 議題は一震災1周年、交流誕生会、賀詞や100才達成表彰、わんこそば、大震災復興写真展、日本まつり、県人会創立55周年など
- 11 大震災犠牲者1周年追悼法要、復興祈願式典に会員多数出席
- 12 そば職人の講習会に会長、平野マリアさん、多田エミリアさん出席
- 14 総領事公邸で大震災一周年追悼法要あり、千田会長、多田、田口副会長出席
- 18 賛助会員の会総会で、故吉田会長の後任に吉田恭子さん就任
- ☆ 菊地名誉会長夫妻、伊藤イグアス前会長夫妻は達達県知事を表敬。若手日報社東根千夫億編集局長と懇談と報あり。
- 23 県の伊東氏から菊地さんら知事表敬写真と賛助会吉田恭子新会長より詳細あり
- 27 総領事公邸で開かれた本郷教授歓迎会に多田副会長出席
- 28 県連基金委員会で2件の案件を検討。会長出席
- 29 栃木県人会で開催された県連代表者会、総会に会長出席
- 4月3日 県人会ニュース177号や役員会開催案内状を発送
- 4 千田会長ヘルニア手術のため入院。平野マリアさん、田口精基さん、多田マウロ副会長が代行

- ※ IBC 岩手放送社より「3.11 岩手大津波の記録～2011東日本大震災」のビデオ2巻の送付あり。礼状を返信
- 14 役員会開催 議題は、交流誕生会、第6回わんこそば大会
- 日本まつり、県人会創立55周年など
- 18 阿部正司さん、平野マリアさんで会計監査あり
- 22 第49回会員交流誕生会、100歳達成者、並びに賀詞伝達あり
- 24 石井さん訪日中のホテルで急逝の報あり、
- 25 遺体検案書の送付あり、奥さん(ネウザ)の急遽訪日の手配
- 26 県連代表者会に会長出席
- 28 故石井氏の妹飯島和子さんへネウザさんが訪日と連絡
- 5月1日 県人会ホール設備の整備並びに一部塗装を行う
- 2 県国際課伊東氏からリオ+20について、詳細を受信
- 3 会員へ「わんこそばまつり+写真展」役員会の案内状を発送
- 4 岩手日報社から岩手大津波復興写真展資料多数の送付あり、
- 6 東北ブロック運動会あり、約500名が参加し盛会であった
- ☆ 吉田恭子さんから賛助会の総会、訪岩者歓迎会などの報告あり
- 7 多田マウロ副会長、市役所に家屋税免税について担当者を訪問
- 15 日本まつりブース抽選会が栃木県人会であり、会長出席
- 19 故石井さんの納骨法要に友人や親戚多数が参拝
- 22 リオで開催されるジャパンデー 請負会社電通関係者3名来館し、千田副会長、多田副会長と多々打ち合わせおこなう。
- 23 小原和子イグアス県人会会長より来年の50周年式典は、8月22日開催と連絡あり。
- 27 第6回わんこそば祭り、岩手大震災復興写真展を開催。大盛況
- 28 写真展と「3・11 大震災の記録ビデオ」(IBC 岩手放送製作)を31日まで上映。
- 31 写真展には5日間で約500名が観覧し終了

いしい たびさき きゆうせい 石井さん旅先で急逝

石井紅夫さん(享年82歳)は、4月24日 旅先のホテルで急逝されました。浅草署は身内へ連絡をと、名刺をたよりに盛岡の賛助会の吉田会長さんに電話があり、県人会に連絡があった。妻のネウザさんから身内を聞きだし、石井さんの妹である和子さんへ連絡。翌日遺体診断書のコピー送付を頼み、奥さんの旅券、入国査証をとり夫のもとへ29日の便で駆けつけた。

遺体は5月1日奥さんや妹さん家族立会のもと横浜で火葬された。奥さんは諸手續の為、数日滞在し「遺灰」を携え9日帰国。

19日親戚や故人の友人が集まり、本門仏立宗日教寺で納骨の法要を営み、前妻の遺灰と一緒に納めた。

石井さんは(本籍静岡)当会の活動に協賛され、諸活動参加や会報の校正など協力を頂いた。ネウザ奥さん(イタリア系ブラジル人)は、夫の行いを今後も継続したいと語っていた。

かい ひ のうにゆうしゃめい けいしゅうりやく ねんがく 会費納入者名 (敬称略, 年額 R\$75.00)

3月 菊地満、4月 前川鮎乃助、平野マリア、平野富夫、平野ジョゼカルロス、千葉キク、袋田重夫、虎岩昭子、亀ヶ沢梅吉、亀ヶ沢アメリ、高橋信男、栃沢千秋、上村敬子、元粕エイジ、尾崎真次(賛助)、児玉勲(賛)、奥田米仏門(賛)、横山郁朗(賛)、

5月 平尾宏子、中島智(賛)、田鎖満、千田みや子、泉政秀、矢野久(賛)、渡辺ミチ(賛) 稗貫義朋(賛)、工藤五三郎、

6月 岩船孝行マルセロ、峰きよソフィア、

会費納入ありがとうございます

とじしよつ まんさつ こ ぶるさと図書室 2万冊を超える 23-5-2012 20,098冊

としりよう 3月 725冊-164名 4月 668冊-146名、

5月 681冊-139名、

図書寄贈者名 (敬称略)3月 和田司 19冊、無名 23冊、

レストラン基六 17冊、天久君子 38冊、広川和子 1冊、新橋

2冊、吉田恭子(盛岡)2冊、4月 無名 1冊、内海博 1冊、

渡辺三良 466冊、具志堅茂信 1冊、石原タネヨ 56冊、宮谷

照子 18冊、菊池透 318冊、5月 無名 8冊、佐藤一津 7冊、

宮谷照子 7冊、中村修子 27冊、上滝重雄 2冊、無名 2冊、

いつも多くの方々から図書寄贈があり、県人会蔵書は2万冊を超えました。ありがとうございます。

県人会事務所来館者数 (1階ホールは含まれません)

3月 438名、4月 389名、

5月 421名



# 第49回会員交流誕生会

4月22日(日)開会までの時間「IBC岩手放送」から贈られた「3・11岩手大津波の記録・2011東日本大震災」の記録ビデオをじっくり観賞頂き、震災の想いを新たに感じていただいた。

会員交流誕生会は正午から多田マウロ副会長の司会により開幕。千田会長は、5月27日「第6回わんこそば大会」と並行して「東日本大震災3・11岩手大津波復興写真展」を岩手日報社提供で行われることを報告。写真展は引きつづき31日までサロン全体に展示。昨年岩手県へご支援頂いた日系コロナの方々にも無料公開されることを報告。多くの来場者をと呼びかけた。



今年から「岩手県人100歳達成者」に県知事表彰が決まり、会長から次の方々に伝達された。  
**泉百吉さん**(明治45年2月29日生)、気仙郡住田町出身は昭和7年6月ラプラタ丸で

移住した。泉さんは妻キヨさんに、佐々木米吉さんと耕成家族としてモジアナ線カコンデ郡サンタクルス耕地へ配耕された。佐々木さんは1969年当時県人会調査ではサンパウロ近郊のアルジャ在となっている。



1960年代頃、泉さんはインディアツーパー郡のペードラブランカ地区(通称)で、主にトマト栽培に励んでいたとことで、県人移住者で現役員の藤村光夫さんや菊池透さんも近くに入植しており、ご家族と

50年前の懐かしい話に花を咲かしていた。泉さん一家はその後ミナス州モンテシオン地方に転住。泉さんの長寿の秘訣は「ゲートボール」だとの事。



**高橋啓一さん**(花巻市大田出身)は、昭和8年に移住。昔はパストス地方にいた。サンパウロ移転後弟の義見さんと鉄工場を経営していた。出席の都合がつかず後日娘さんに伝達された。

「賀詞伝達」毎年75歳を迎えられた方に贈られる「海外移住功労者」として県知事から表彰されるもので、遠野市宮守出身の**多田登さん**は「昭和15年4歳で家族と移住」サンパウロ州奥地のペレイラバレット(チエテ移住地)に入植。現在もお店で頑張っておられる。当日は多田マウロ副会長が代理受理。多田さんは故郷へ一度も里帰りしたことがなく、来年5月頃マウロさんが父親を連れて里帰りさせたいと計画している。

**昆野トシ子さん**は、奥州市江刺区出身で昭和41年に移住。パストス地方で農業に従事されていた。現在は子息たちと市内に在住。子息のワシントンさんは県費研修帰国後、県人会役員として頑張っている。

**和賀希耕さん**は昭和33年に江刺市岩谷堂から移住。サンパウロから170キロのイタペチニング市で農業を営んでいる。賀詞は後日受取り。



賞状伝達後、元気な泉翁の音頭で乾杯し食事後、ビンゴに興じ、1月から4月生まれの日誕生会を行い楽しい一日を過ごした。

# 沸き立った東北ブロック運動会



5月6日(日)午前9時から、市内サウデ区のColegio Santa Amalia校で「東北6県北海道ブロック」青年部主催「第8回運度会」が涼しい秋空のもと行われ、約500人が参加し18の競技が行われた。

担当県の近沢マリーナ実行委員長(青森県人会副会長)の開会の挨拶、多田マウロ(岩手)さんの司会で、日伯両国歌、ラジオ体操、招待者の挨拶などあり、小さい子供さんの50m競技からはじまった。午前は、50m、100m、袋競技、3人4脚、タイヤ転がし、ミーヨつまみ、封筒合わせ、宝探しなど行われた。

屋敷時間には和太鼓とよさこいグループによる、そうらん節のアトラクションがあった。尚、屋食は青年部手作りの弁当やシュラスコ、飲物などが用意されていた。またコロナの団体長や政治家も顔を見せた。午後は、姑嫁探し、ボールけり、舅嫁探し、パン食い、卵運び、綱引き、玉入れ、ボール送り、最後に子供から大人までのリレーがあり閉会は午後5時を過ぎていた。

全ての競技が盛りあがったが、大きな声援があったのは綱引きや最後のリレーだったと思う。お陰で楽しい一日を過ごした。

昨年、会場は日系生徒も多く学んでいる学校の屋根付きの広場で雨天でも出来、メロやバス停も近く便利である。

今年の運動会は、県人会の活性化や若い人々の参加を促す目

的で設立された「県連基金」から、助成があったため若い人たちの熱のいれようがめだ、若年層の参加が例年より多かった。



Parabéns Seinen

# 「賛助会員の会」総会で新役員選出

新会長に吉田恭子さん

南米からの訪問者を歓迎

3月18日、岩手県盛岡市で「ブラジル岩手県人会賛助会員の会」では総会を開催した。以下、吉田新会長さんからのご報告を掲載します。



千田会長さんをはじめ会員の皆様には、わんこそば祭りの準備でおわらわで大童のごこと存じます。

さて、このたびは

昨年10月に急逝された、吉田重雄会長のあとを引き継ぎ賛助会員の会の二代目会長を務めることになりました。

前会長は県職員時代に直接南米移住の仕事に携わって以来、半世紀以上も南米にお住まいの皆様のことを心にかけておられ、当会の発足に尽力されました。岩手県内の移住に関する生き字引であった前会長の足元にも及ばない若輩ですが、親にあたる貴ブラジル岩手県人会と岩手県との交流を長く続くように歩んで参ります。

去る3月の総会では、岩手県民謡協会（藤沢清美会長）の11名の方々が新に会員として活動に加わってくれることになりました。

会員数は50名ほどですが、会員一人一人がそれぞれの繋がりで活動する当会のその窓口とまとめ役として励んでまいり所存です。（写真は吉田新会長）

ブラジル県人会賛助会員の会 会長 吉田恭子



新役員体制は、副会長に清水泰宏さん（再）、高橋満男さん、松本



ミさん、真崎良平さん、藤村勝巳さん（事務局担当）で、菅原圓雄さんは顧問になり、稲田収さんと2名顧問になりました。

祝賀会は、招待客が菊地義治さん（事務局担当）で、菅原圓雄さん（援協会長・医療功労賞を受賞）

ご夫妻、イグアスの伊藤鷹雄（前会長）ご夫妻、三枝たか子（自閉症児童教育専門家）さんの歓迎、アスンシオンからの留学生の送別と、複数で出席者も会員のほか、県の千葉課長、菊地さんの同級生2名、さんさ踊りの東・藤原の両名、鬼剣舞の八重樫さん、田鎖さん夫妻、馬場より子さん、熊谷晴子さんなど多彩な顔ぶれで、民謡協会の9名が賛助会員になると同時に沿岸でのチャリティショウの帰路駆けつけ、10曲ほど披露して会場を沸かせ、菊地さんの奥様に日本語で歌を披露し、やんやの喝采でした。賑やかで心から楽しむことができました。形式ばらない良く知った人たちの集まりは素晴らしいものです。総会には10数名出席、祝賀会には34名参加。



ところで来年の式典日程はある程度かたまったでしょうか。県の担当も山田さんになったので、今後少しづつ話し合わなくてはと思っています。民謡団の派遣だけはなんとしても実現させた

いものです。

## 海外県人会総会とお便り

### ピラポ県人会 第51回定期総会で新役員選出

ブラジル県人会 千田会長さま

いつもお世話になっております。お元気でお過ごしですか。ピラポ県人会事務局の北村です。

4月22日に当ピラポ岩手県人会第51回定期総会が開催され役員改選が行われましたのでお知らせいたします。

会長 西館 世公 副会長 佐藤 豊 会計 田口 多加志  
 監事長 澤口 豊治 監事 千田 吉二  
 事務局 北村 幸雄

全員留任ですが副会長が2名から1名になりました。これまで通りよろしくご指導くださいます様よろしくお願ひ申し上げます。

総会終了後の懇親会では婦人方が”ひつみ”（すいとん）と”なべ子団子”（お汁粉）を作ってくれました。今では岩手県北の名物だそうですが、初めて食べる人が多くて何杯もお代わりしている人もいました。地鶏でだしをとったのでおいしかったようです。（雑談でした）

## イグアス県人会 2011年度総会開催

ブラジル岩手県人会 会長 千田曠暁 様

イグアスの武田です。いつもお世話になっております。毎度県人会ニュース、写真等を送って頂き楽しく観させて頂いております。

こちらイグアスは、昨年からの早魃猛暑が続きました、先週待望の雨が降りほつとしたところです。しかし今回の早魃で農作物の影響が大きく大豆の場合50%～60%の減収と言われており、かなり深刻な状況です。

さて、伊藤氏訪日件ですが、あまり体調が芳しくないので精密検査の為の訪日とのことでした。パラグアイ出発は2月29日ですが

岩手行きは3月8日頃の予定 滞在期間は、一ヶ月半程とのこと、この件につきましては電話でお話したとのことでした。

今年 1月11日 イグアス岩手県人会2011年度定例総会を開催致しました。総会に伴い役員改選が行われ、新三役が選ばれましたのでお知らせ致します。

新役員 会長：小原 和子 副会長：伊藤 勉（鷹雄氏の長男）  
 総務会計：菅原 祐一郎（祐助氏の長男） 上記のように決まりました。

これまで いろいろお世話になり心より感謝申し上げます、後任者につきましても 引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い致します。 武田宏幸

## 南部美人の久慈さん来伯

4月12日、2年ぶりに(酒)南部美人酒造(久慈市)5代目蔵元久慈浩介氏(県人会賛助会員)が来伯。県人会前のレストラン・エスパツ和で大和貿易関係者と共に2年ぶりに昼食懇談。久慈さんは相変わらずのタフマンでメキシコから米国経由で着伯。夜は昨年オープンした「エスパツ和」にレストラン関係者を招いて南部美人2種類の美味しい飲み方とおつまみを紹介。久慈さんは13日ニッケイ新聞で懇談後、スペイン経由でロンドン、パリ、ドバイなどで広報活動を行う予定。来年の県人会55周年式典には是非また来たいと話している。



☆久慈さんは、2004年NYの岩崎県人会長に紹介され、南米に売り込みをはじめ、以来、お酒のPRかたがたが県人会との交流を深めている。震災で落ちこんだ酒の消費を、盛上げようと販路拡大へと被災地代表役としてPRに努めている。

☆久慈さんは、2004年NYの岩崎県人会長に紹介され、南米に売り込みをはじめ、以来、お酒のPRかたがたが県人会との交流を深めている。震災で落ちこんだ酒の消費を、盛上げようと販路拡大へと被災地代表役としてPRに努めている。

## 県人会55周年は2013年8月

県人会では、2013年8月18日に「創立55周年記念式典」を開催致します。移住者の先輩諸氏が50周年後以降、高齢化やご病気などで多くの方々がお亡くなりになっております。従って一世主導では、最後の「式典」とも考えられます。

## お知らせ

Avisos de Kenjinkai

6月20日 昨年の震災被災地東北をアピールする「ジャパネー」(リオで開催)「餅搗き」で応援するため県人会から3名参加、若手県職員3名が参加されますので、交流を計りたいと思います。

20/06/2012「RIO + 20」Kenjinkai ajuda com moti-tsuki

7月13日-15日 県連主催「第15回日本まつり」が行われます。当会では「三陸わかめうどん」「コロッケ弁当」その他を検討中で、「わかめ」は若手から取寄せ、うどん玉はコシのある輸入品を使用し美味しい「三陸わかめうどん」を提供致します。

dia 13 a 15 de julho 15° Festival do Japão

8月26日(日)「第50回会員交流誕生会」を行います。皆様のご参加をお願い致します。「食事は持寄りをお願いします」

26/8 50° Confraternização e Aniversario (Motiyori)

9月23日(日)「第19回岩手餅祭り」を予定。「餅祭り」は5年ぶりに皆様のご要望で再開します。祭りは「故郷の味を思い出させる」「ずんだ餅」はじめ色々な種類を提供予定です。

dia 23/9 19° MOTI MATSURI

岩手県は昨年「東日本大震災」で、甚大な被害を被っている事もあり、式典は簡素でも会員皆様や子弟を交え、母県からの慶祝団皆様との交流を主体とした節目を祝いたいと願っております。

お隣のパラグアイ国イグアス県人会では「創立50周年」を迎えます。式典は8月22日に行うとの事です。

## Boletim Informativo de A C A Iwate-kenjinkai do Brasil Junho 2012 Nº 178

Rua Thomaz Gonzaga 95-M CEP 01506-020 Liberdade São Paulo SP Brasil tel/fax (011) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br

## 6º FESTIVAL WANKO SOBA



A 6ª edição do Festival Wanko Soba realizado no dia 27 de maio, novamente foi um sucesso de publico que lotou o kaikan do Kenjinkai. Aproximadamente 300 pessoas compareceram para prestigiar o nosso evento que está se tornando uma atração, devido a competição de quem come mais SOBA em 3 minutos.

Com várias pessoas querendo participar, no total foram realizadas 4 baterias para homem e 1 bateria para mulher. O destaque ficou para Vicente Murakami, representante da JICA no Brasil que comeu 98 porções e foi o grande campeão do dia. Aos voluntários mais uma vez os nossos agradecimentos pela colaboração.



## 49º CONFRATERNIZAÇÃO DE ASSOCIADOS



Foi realizado em 22 de abril a 49ª confraternização de associados onde também comemoramos o aniversário dos associados nascidos de janeiro a abril.

Neste dia foram homenageados com diplomas enviados pelo Kentyo,

MOMOKICHI IZUMI –

100 anos,

NOBORI TADA – 75 anos,

TOSHIKO KONNO – 75

anos e

KIKOU WAGA – 75 anos.



## EXPOSIÇÃO DE FOTOS DA RECONSTRUÇÃO DE IWATE



A exposição de fotografias retratando a reconstrução das cidades de Iwate Ken atingidas pelo Tsunami, foi realizada entre os dias 27 a 31 de maio no kaikan do Iwate Kenjinkai.

A inauguração da exposição ocorreu no mesmo dia do 6º Festival de Wanko Soba.

No total foram mostradas 69 fotografias das 13 cidades afetadas, sendo a maioria delas, gentilmente cedidas pelo jornal IWATE NIPPO tiradas por fotógrafos profissionais

e também fotografias tiradas por MITSUO FUJIMURA e KATSUMI FUJIMURA, fotógrafos amadores que estiveram no local da destruição.

A exposição que durou 5 dias, foi visitada por cerca de 500 pessoas, que elogiaram a qualidade da exposição.



## 8º UNDOUKAI GRUPO TOHOKU-HOKKAIDO



Foi realizado em 06 de maio, no Colégio Santa Amália, bairro da Saúde, o 8º Undoukai do Grupo Tohoku Hokkaido, este ano sob a coordenação do Aomori Kenjinkai.



O Undoukai do ano passado, o primeiro realizado em quadra coberta, foi tão bem aceito que este ano tivemos um crescimento de público, chegando a 500 pessoas.

Foram arrecadados mais de 500 kg de alimentos não perecíveis, que foram doados para a entidade KODOMO NO SONO que fica no bairro de Itaquera.



## ANUIDADES RECEBIDAS

Anuidade de 2012 R\$ 75.00

(MARÇO/12) Mitsuru Kikuchi, Ayunosuke Maekawa, Maria Hirano, Tomio Hirano, Jose Carlos Hirano, Kiku Chiba, Shigeo Horota, Akiko Toraiwa, Umekichi Kamegasawa, Amelia Kamegasawa, Nobuo Takahashi, Chiaki Tochizawa, Keiko Kamimura, Eiji Motokashi, Shinji Ozaki, Isao Kodama, Befumon Okuda, Ikuro Yokoyama

(MAIO/12) Hiroko Hirao, Satoshi Nakashima, Mitsuru Takusari, Miyako Chida, Masahide Izumi, Hisashi Yano, Miti Watanabe, Yoshitomo Hienuki, Gosaburo Kudo

(JUNHO/12) Marcelo Takayuki Iwafune, Sofia Kiyoko Mine.

## NOTA DE FALECIMENTO

dia 24 de Abril Sr Kofu Ishii, faleceu aos 82 anos em Tokyo durante passeio ao Japão.



IMPRESSO  
PODE SER ABERTO PELA ECT

Associação Cultural e Assistencial Iwate Kenjinkai do Brasil  
**イワテ岩手県人会**  
Rua Thomaz Gonzaga 95-M Liberdade São Paulo Brasil CEP 01506-020  
TEL/FAX (11) 3207-2383 www.iwate.org.br e-mail iwate@iwate.org.br  
イワテ岩手県人会ニュース 177号 2012年6月発行



第6回わんこそばまつり